

第25回文京区政に関する世論調査

<要約版>

令和3年12月
文京区

このパンフレットは、令和3年8月から9月にかけて実施した「第25回文京区政に関する世論調査」のあらましです。

【調査概要】

■調査の設計

- | | |
|------------|----------------------------|
| (1) 調査地域 | 文京区全域 |
| (2) 調査対象 | 文京区在住の満18歳以上の個人（住民基本台帳による） |
| (3) 標本数 | 2,500サンプル |
| (4) 対象者の抽出 | 層化2段無作為抽出法（5地区に分類し対象者を抽出） |
| (5) 調査方法 | 郵送配布・郵送回収またはインターネット回答 |
| (6) 調査期間 | 令和3年8月23日（月）～9月6日（月） |
| (7) 調査機関 | 株式会社エスピー研 |

■調査結果

- | | |
|--------------|---------------------|
| (1) 標本数 | 2,500件 |
| (2) 有効回収数（率） | 1,182件（47.3%） |
| ・ 郵送回収 | 758件（有効回収数のうち64.1%） |
| ・ インターネット回答 | 423件（有効回収数のうち35.8%） |
| ・ 持参 | 1件（有効回収数のうち0.1%） |

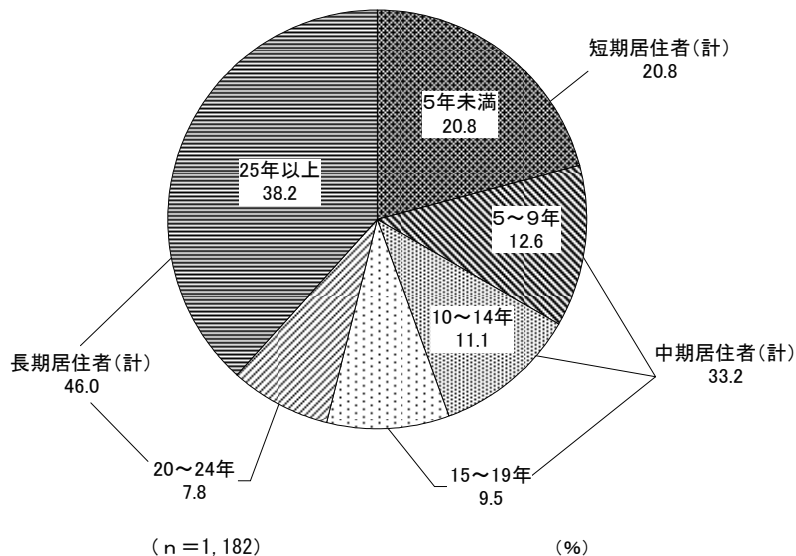
【要約版の見方】

- このパンフレットの数字はすべて回答者全員を100.0%とした比率（%）です。
- 小数点第2位を四捨五入しているため合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答の場合は、合計が100.0%を超えることがあります。
- “n”は各設問の回答者数（比率算出の基数）のことです。

定住意向

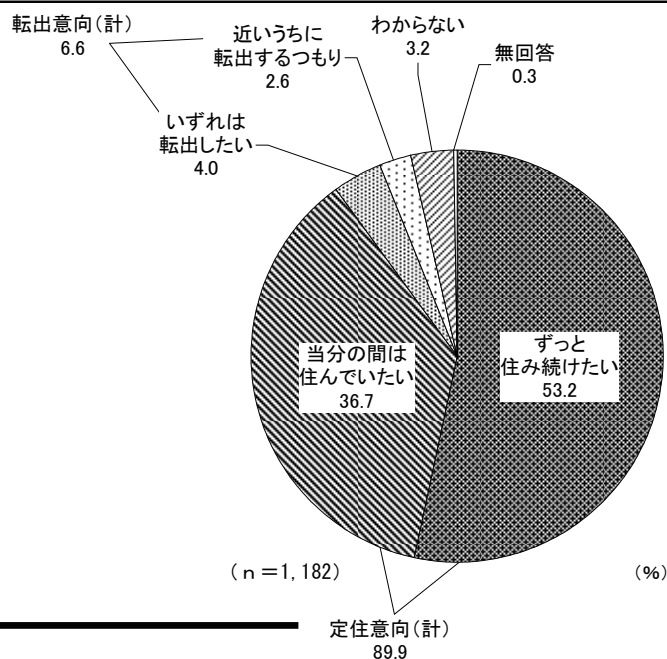
問 あなたは、文京区にお住まいになって何年になりますか。

居住年数をたずねたところ、「5年未満」の『短期居住者(計)』(20.8%)が約2割、「5～9年」(12.6%)、「10～14年」(11.1%)、「15～19年」(9.5%)を合わせた『中期居住者(計)』(33.2%)が3割を超え、「20～24年」(7.8%)と「25年以上」(38.2%)を合わせた『長期居住者(計)』(46.0%)が4割半ばとなっている。



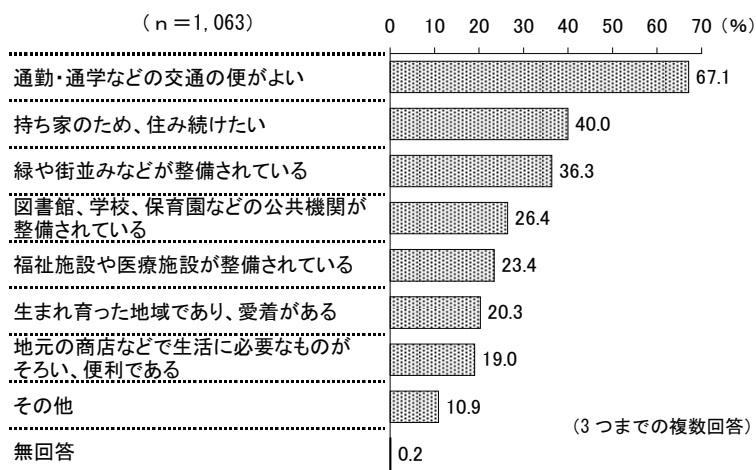
問 あなたは、これからも文京区に住み続けたいと思いますか。

定住・転出意向をたずねたところ、これからも文京区に「ずっと住み続けたい」(53.2%)が5割を超え、これに「当分の間は住んでいたい」(36.7%)を合わせた『定住意向(計)』(89.9%)が9割となっている。一方、「いずれは転出したい」(4.0%)と「近いうちに転出するつもり」(2.6%)を合わせた『転出意向(計)』(6.6%)は1割未満となっている。



問 住み続けたいと思う理由は何ですか。

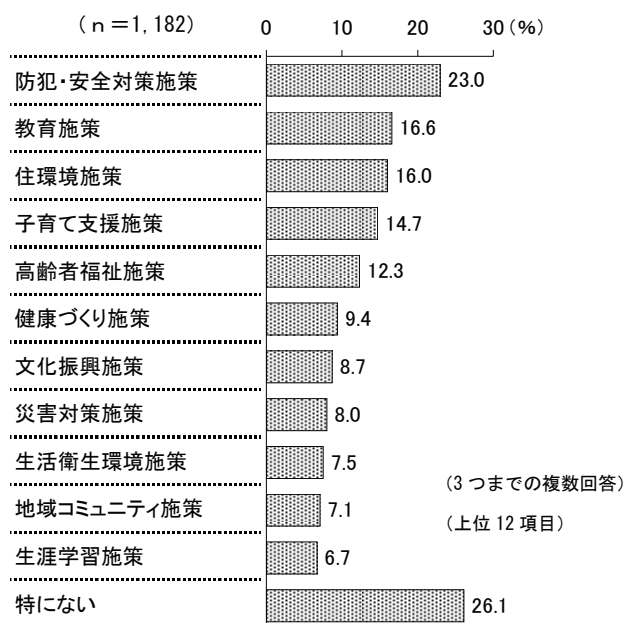
これからも文京区に「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住んでいたい」と答えた方(1,063人)に、住み続けたい理由をたずねたところ、「通勤・通学などの交通の便がよい」(67.1%)が7割近くで最も多く、次いで「持ち家のため、住み続けたい」(40.0%)、「緑や街並みなどが整備されている」(36.3%)、「図書館、学校、保育園などの公共機関が整備されている」(26.4%)などの順となっている。



区政運営

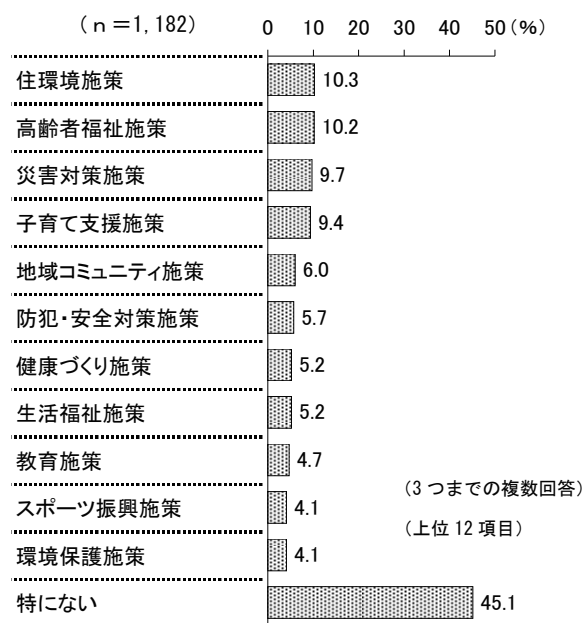
問 次の区の施策のうち、あなたが満足に感じている分野を、3つ以内でお選びください。

満足に感じる区の施策についてたずねたところ、「防犯・安全対策施策」(23.0%)が2割を超えて最も多く、次いで「教育施策」(16.6%)、「住環境施策」(16.0%)、「子育て支援施策」(14.7%)などの順となっている。また、「特にない」(26.1%)は2割半ばとなっている。



問 次の区の施策のうち、あなたが不満に感じている分野を、3つ以内でお選びください。

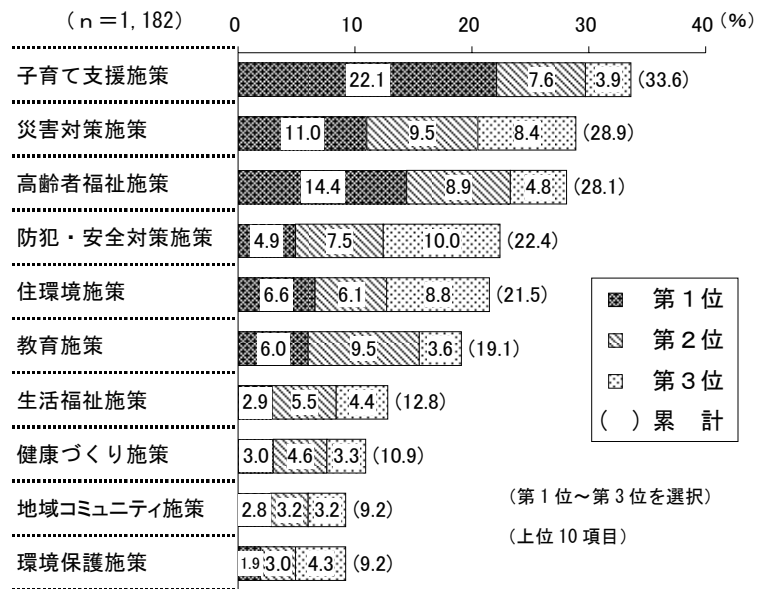
不満に感じる区の施策についてたずねたところ、「住環境施策」(10.3%)、「高齢者福祉施策」(10.2%)、「災害対策施策」(9.7%)、「子育て支援施策」(9.4%)が約1割となっている。また、「特にない」(45.1%)は4割半ばとなっている。



問 次の区の施策のうち、あなたがさらに力を入れるべきだと考える分野を、順位をつけて、3つ以内で選び、下の記入欄に番号をご記入ください。

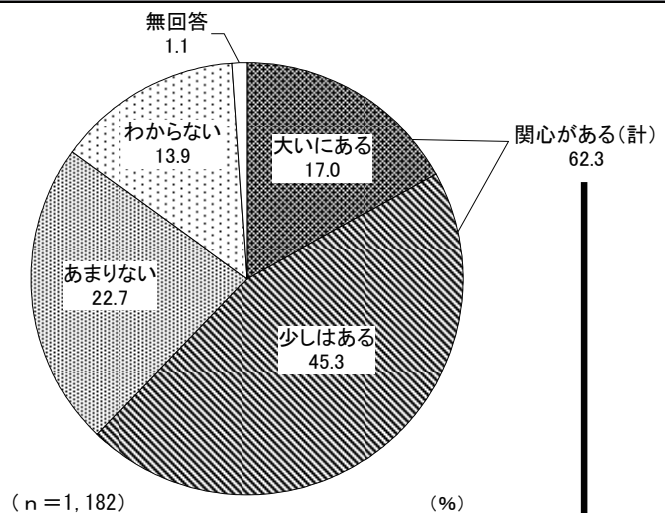
さらに力を入れてほしい区の施策についてたずねたところ、第1位は「子育て支援施策」(22.1%)が2割を超えて最も多く、次いで「高齢者福祉施策」(14.4%)、「災害対策施策」(11.0%)などの順となっている。

また、第1位から第3位までを合わせた累計で見ると、「子育て支援施策」(33.6%)が3割を超えて最も多く、次いで「災害対策施策」(28.9%)、「高齢者福祉施策」(28.1%)、「防犯・安全対策施策」(22.4%)、「住環境施策」(21.5%)などの順となっている。



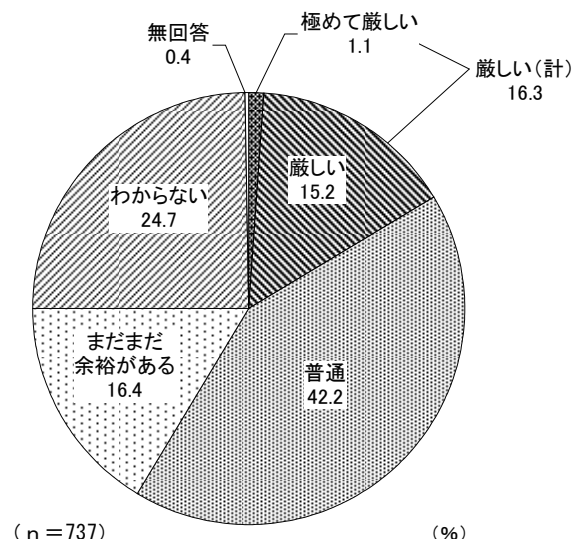
問 あなたは、区の財政状況に関心がありますか。

区の財政状況に対する関心についてたずねたところ、「大いにある」(17.0%)と「少しはある」(45.3%)を合わせた『関心がある(計)』(62.3%)は6割を超えている。一方、「あまりない」(22.7%)は2割を超え、「わからない」(13.9%)は1割を超えている。



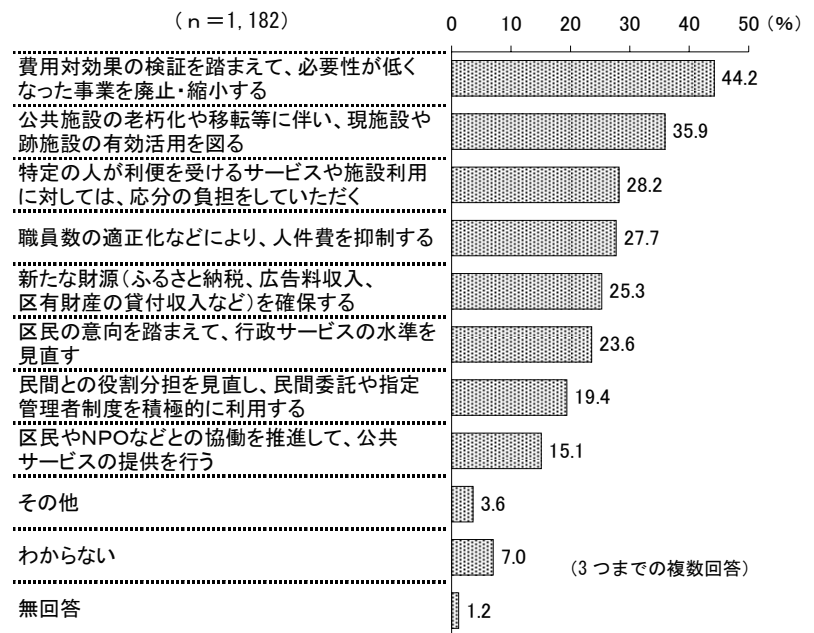
問 区の財政状況について、どのような印象をお持ちですか。

区の財政状況に対する関心が「大いにある」または「少しはある」と答えた方(737人)に、区の財政状況に対する印象についてたずねたところ、「普通」(42.2%)が4割を超えて最も多くなっている。「極めて厳しい」(1.1%)と「厳しい」(15.2%)を合わせた『厳しい(計)』(16.3%)は1割半ば、「まだまだ余裕がある」(16.4%)は1割半ばとなっている。



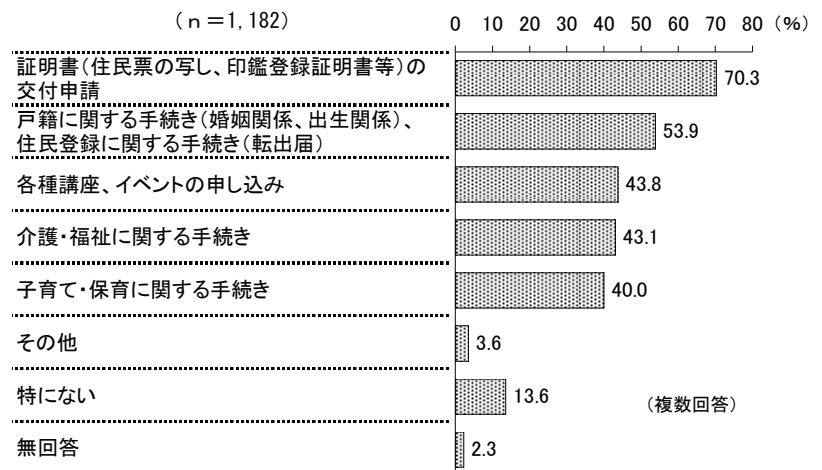
問 財政の健全化を更に進めていくためには、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

財政の健全化を更に進めていくために必要なことについてたずねたところ、「費用対効果の検証を踏まえて、必要性が低くなった事業を廃止・縮小する」(44.2%)が4割半ばで最も多く、次いで「公共施設の老朽化や移転等に伴い、現施設や跡施設の有効活用を図る」(35.9%)、「特定の人が利便を受けるサービスや施設利用に対しては、応分の負担をしていただく」(28.2%)、「職員数の適正化などにより、人件費を抑制する」(27.7%)などの順となっている。



問 あなたが、インターネットで申請・届出等ができるの良いと思う行政手続きや、区のサービスは何ですか。

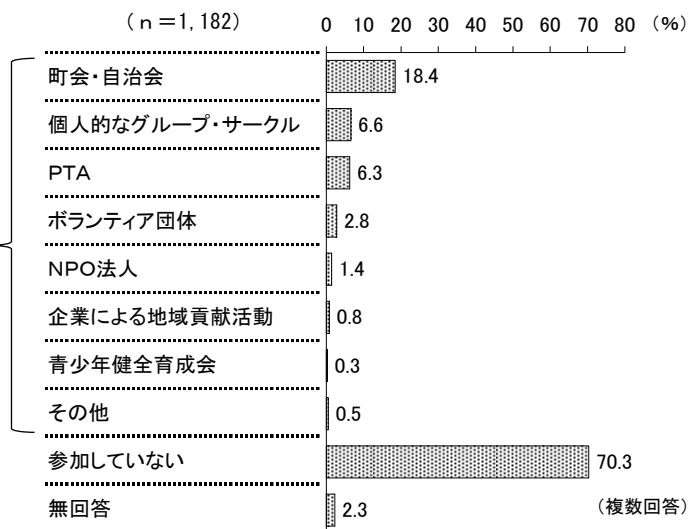
インターネットで申請・届出等ができるの良いと思う行政手続きについてたずねたところ、「証明書(住民票の写し、印鑑登録証明書等)の交付申請」(70.3%)が7割で最も多く、次いで「戸籍に関する手続き(婚姻関係、出生関係)、住民登録に関する手続き(転出届)」(53.9%)、「各種講座、イベントの申し込み」(43.8%)、「介護・福祉に関する手続き」(43.1%)などの順となっている。



協働・協治

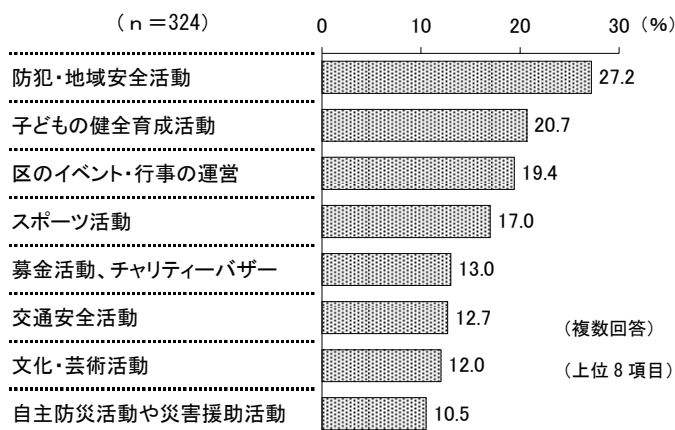
問 区内でNPO、ボランティア団体及び町会・自治会等の地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に参加していますか。

現在参加している地域活動についてたずねたところ、「町会・自治会」(18.4%)が2割近くで最も多く、次いで「個人的なグループ・サークル」(6.6%)、「PTA」(6.3%)などの順となっている。一方、「参加していない」(70.3%)は7割となっている。



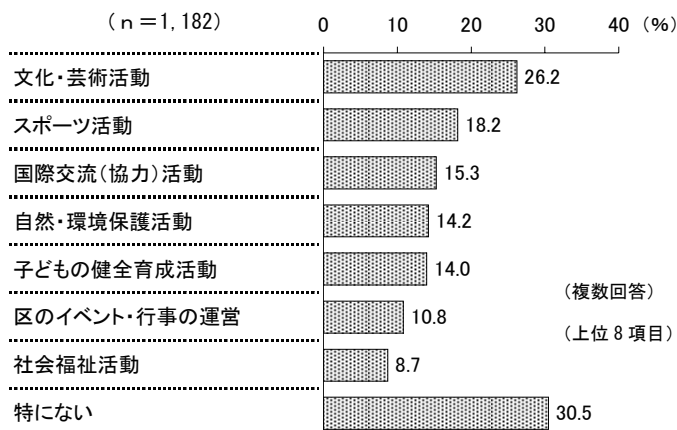
問 その活動はどのような分野ですか。

「地域活動に参加している」と答えた方(324人)に、地域活動の分野についてたずねたところ、「防犯・地域安全活動」(27.2%)が3割近くで最も多く、次いで「子どもの健全育成活動」(20.7%)、「区のイベント・行事の運営」(19.4%)、「スポーツ活動」(17.0%)などの順となっている。



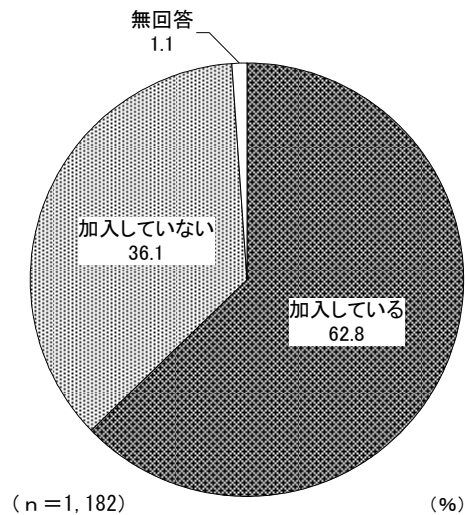
問 今後参加してみたいと思う地域での活動はどのような分野ですか。

今後参加してみたい地域活動についてたずねたところ、「文化・芸術活動」(26.2%)が2割半ばで最も多く、次いで「スポーツ活動」(18.2%)、「国際交流(協力)活動」(15.3%)、「自然・環境保護活動」(14.2%)などの順となっている。一方、「特にない」(30.5%)は約3割となっている。



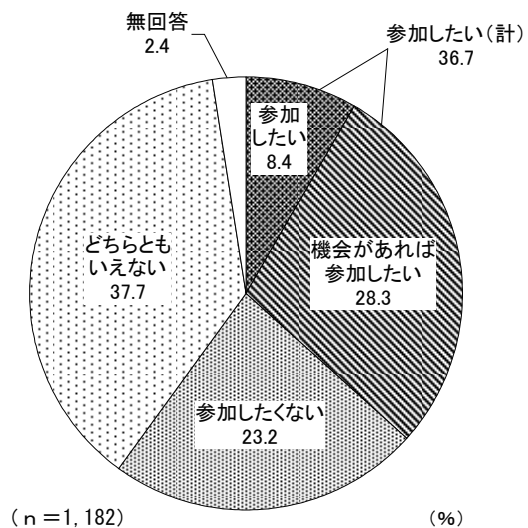
問 あなたの世帯は、町会や自治会に加入していますか。

町会・自治会の加入状況についてたずねたところ、「加入している」(62.8%)が6割を超え、「加入していない」(36.1%)は3割半ばとなっている。



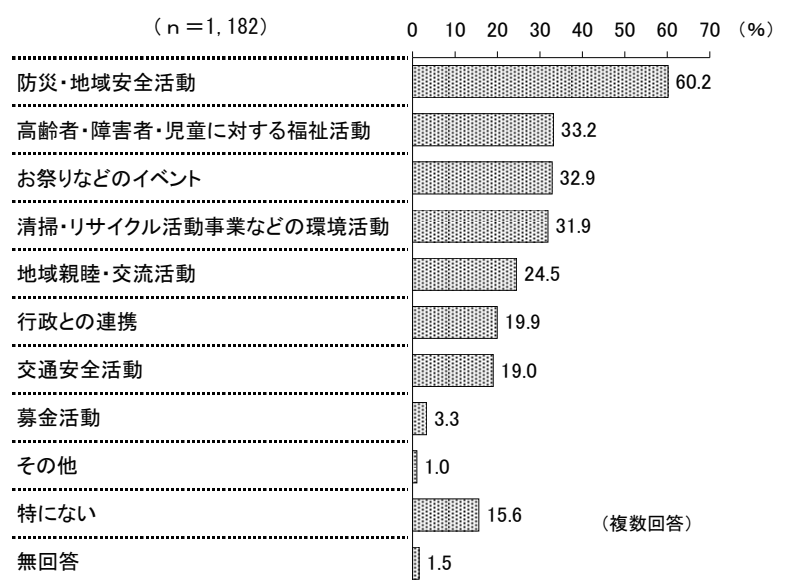
問 あなたは今後、町会や自治会活動に参加したいと思いますか。

町会・自治会への参加意欲についてたずねたところ、「参加したい」(8.4%)と「機会があれば参加したい」(28.3%)を合わせた『参加したい(計)』(36.7%)が4割近くとなっている。一方、「参加したくない」(23.2%)は2割を超え、「どちらともいえない」(37.7%)は4割近くとなっている。



問 町会・自治会に期待する内容はどのようなことですか。

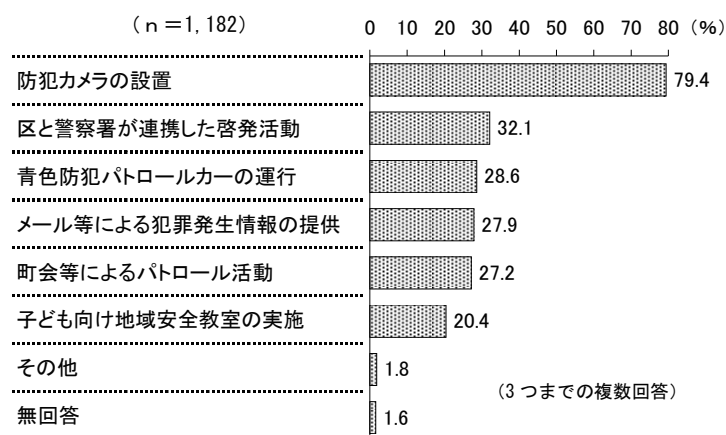
町会・自治会に期待することについてたずねたところ、「防災・地域安全活動」(60.2%)が6割で最も多く、次いで「高齢者・障害者・児童に対する福祉活動」(33.2%)、「お祭りなどのイベント」(32.9%)、「清掃・リサイクル活動事業などの環境活動」(31.9%)、「地域親睦・交流活動」(24.5%)、「行政との連携」(19.9%)、「交通安全活動」(19.0%)、「募金活動」(3.3%)、「その他」(1.0%)、「特にない」(15.6%)の順となっている。



防災・安全

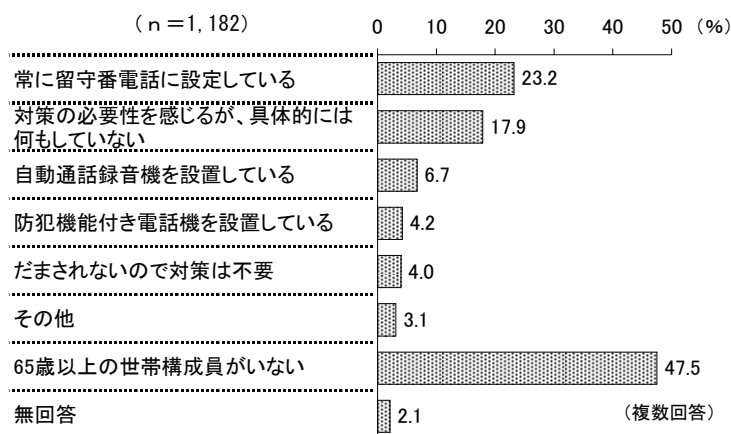
問 警察のパトロール以外で、あなたが防犯対策として有用だと考えるものは何ですか。

警察のパトロール以外で防犯対策として有用だと考えるものについてたずねたところ、「防犯カメラの設置」(79.4%)が約8割で最も多く、次いで「区と警察署が連携した啓発活動」(32.1%)、「青色防犯パトロールカーの運行」(28.6%)、「メール等による犯罪発生情報の提供」(27.9%)などの順となっている。



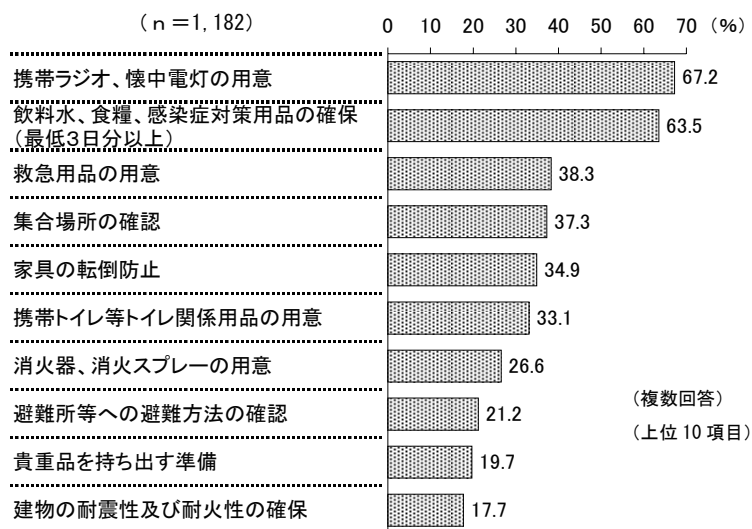
問 区では、おおむね65歳以上の方が居住する世帯を対象に、自動通話録音機の無償貸与を行っていますが、高齢者世帯を狙った特殊詐欺の被害防止について、何か対策を講じていますか。

高齢者世帯を狙った特殊詐欺の被害防止について、何か対策を講じているかたずねたところ、「常に留守番電話に設定している」(23.2%)が2割を超えて最も多く、次いで「対策の必要性を感じるが、具体的には何もしていない」(17.9%)、「自動通話録音機を設置している」(6.7%)などの順となっている。



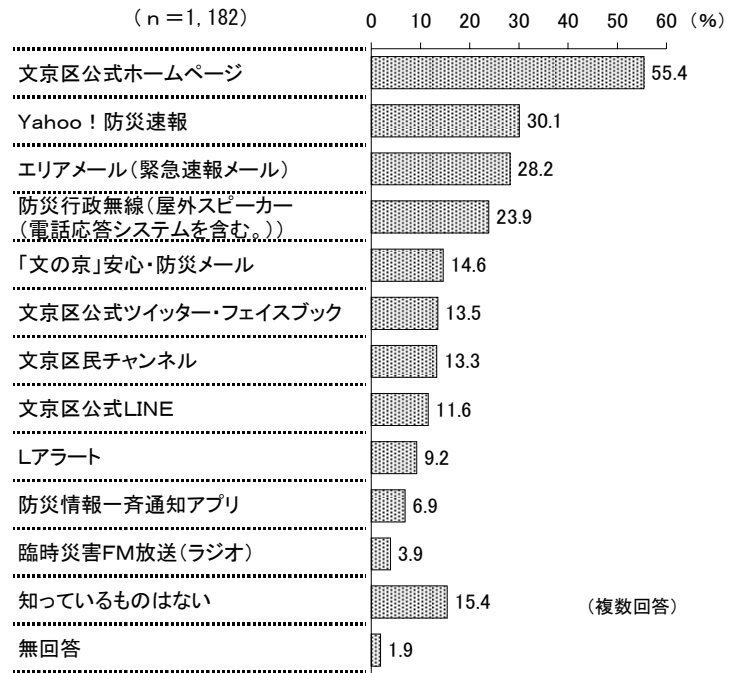
問 あなたは、災害に備えてどのような対策をしていますか。

災害への備えについてたずねたところ、「携帯ラジオ、懐中電灯の用意」(67.2%)が7割近くで最も多く、次いで「飲料水、食糧、感染症対策用品の確保(最低3日分以上)」(63.5%)、「救急用品の用意」(38.3%)、「集合場所の確認」(37.3%)、「家具の転倒防止」(34.9%)などの順となっている。



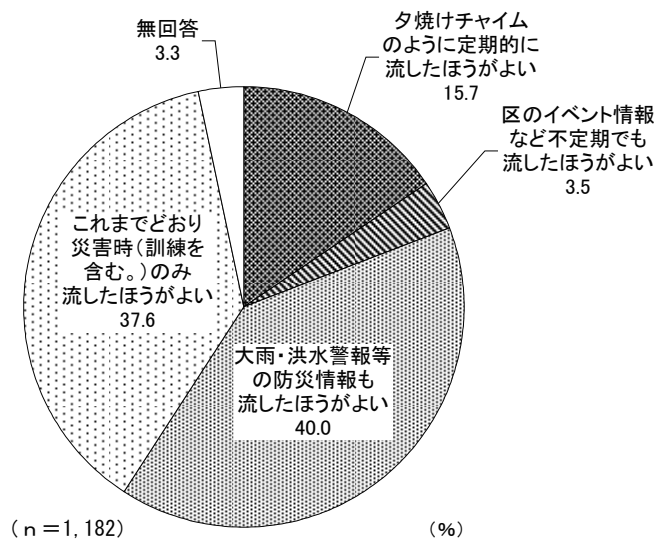
問 区からの災害情報の提供方法について、知っているものをすべてお選びください。

区からの災害情報の提供方法の認知度についてたずねたところ、「文京区公式ホームページ」(55.4%)が5割半ばで最も多く、次いで「Yahoo! 防災速報」(30.1%)、「エリアメール(緊急速報メール)」(28.2%)、「防災行政無線(屋外スピーカー(電話応答システムを含む。))」(23.9%)、「文の京」安心・防災メール」(14.6%)、「文京区公式ツイッター・フェイスブック」(13.5%)、「文京区民チャンネル」(13.3%)、「文京区公式LINE」(11.6%)、「Lアラート」(9.2%)、「防災情報一斉通知アプリ」(6.9%)、「臨時災害FM放送(ラジオ)」(3.9%)などの順となっている。



問 区では、災害情報を広域的に伝達する目的で、「防災行政無線(屋外スピーカー)」を公園や区立学校等に設置しております。現在、防災行政無線は、緊急性を強調するため、訓練を除き災害時のみ使用していますが、その使用方法について、あなたが最も適切と思うものをお選びください。

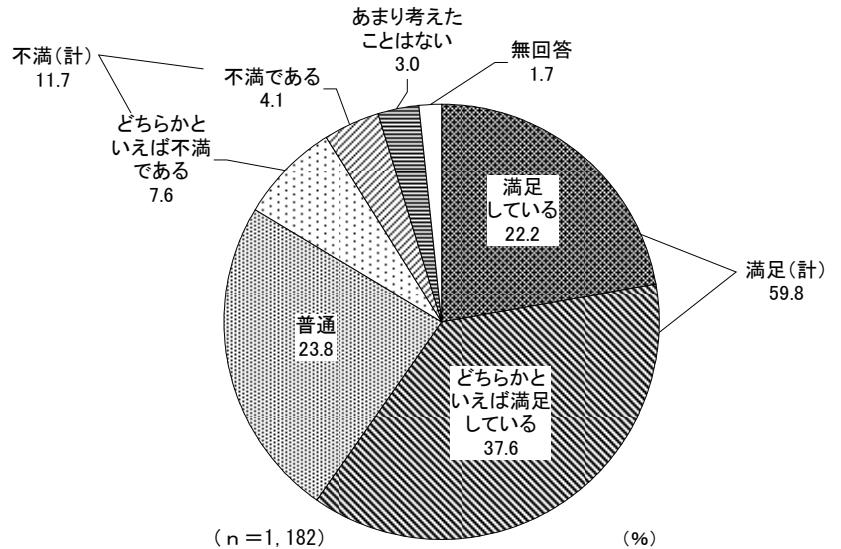
防災行政無線の使用方法についてたずねたところ、「大雨・洪水警報等の防災情報も流したほうがよい」(40.0%)が4割で最も多く、次いで「これまでどおり災害時(訓練を含む。)のみ流したほうがよい」(37.6%)、「夕焼けチャイムのように定期的に流したほうがよい」(15.7%)、「区のイベント情報など不定期でも流したほうがよい」(3.5%)の順となっている。



まちづくり

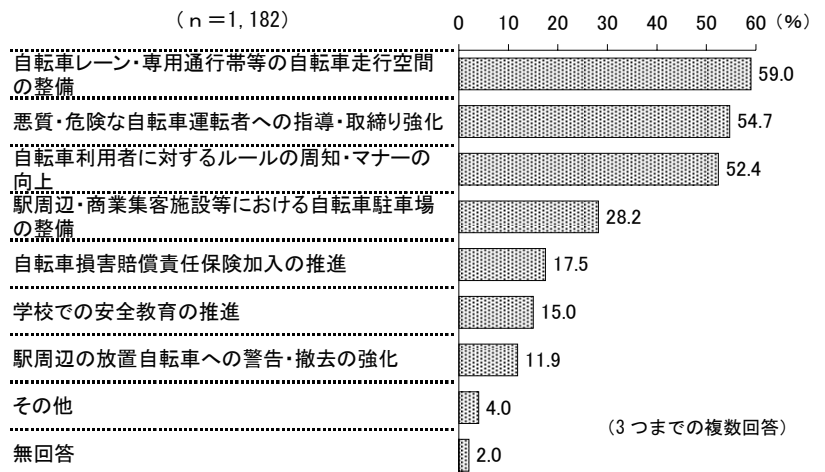
問 あなたがお住まいの地域のまち並み・景観について、どのように感じますか。

周辺地域のまち並み・景観に対する満足度についてたずねたところ、「満足している」(22.2%)と「どちらかといえば満足している」(37.6%)を合わせた『満足(計)』(59.8%)が6割となっている。一方、「どちらかといえば不満である」(7.6%)と「不満である」(4.1%)を合わせた『不満(計)』(11.7%)は1割を超えている。また、「普通」(23.8%)は2割を超えている。



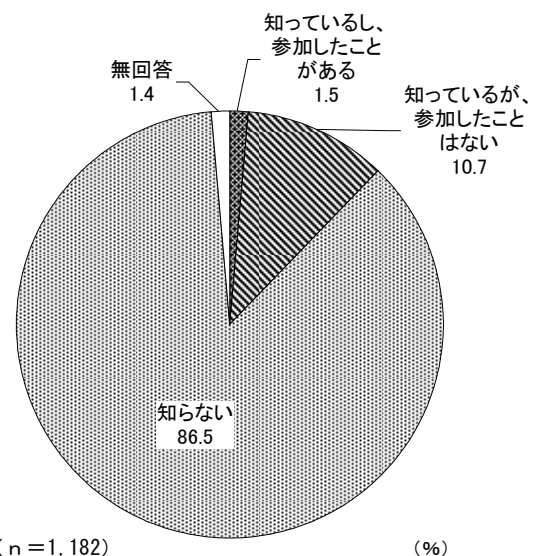
問 自転車の安全利用推進のために、重点を置くべきと思う施策について、3つ以内でお選びください。

自転車の安全利用推進のために、重点を置くべきと思う施策についてたずねたところ、「自転車レーン・専用通行帯等の自転車走行空間の整備」(59.0%)が約6割で最も多く、次いで「悪質・危険な自転車運転者への指導・取締り強化」(54.7%)、「自転車利用者に対するルール・マナーの向上」(52.4%)、「駅周辺・商業集客施設等における自転車駐車場の整備」(28.2%)などの順となっている。



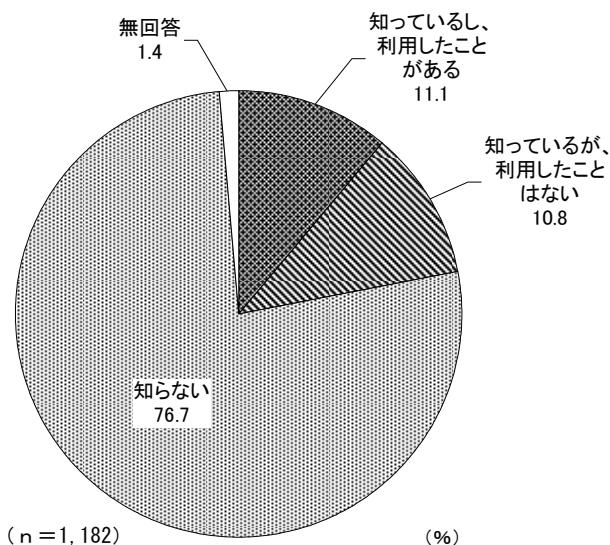
問 みどりに関する啓発事業（自然散策会やガーデナー制度等）を知っていますか。

みどりの啓発事業の認知度及び参加状況についてたずねたところ、「知っているし、参加したことがある」(1.5%)は1割未満、「知っているが、参加したことはない」(10.7%)は約1割となっている。一方、「知らない」(86.5%)は9割近くとなっている。



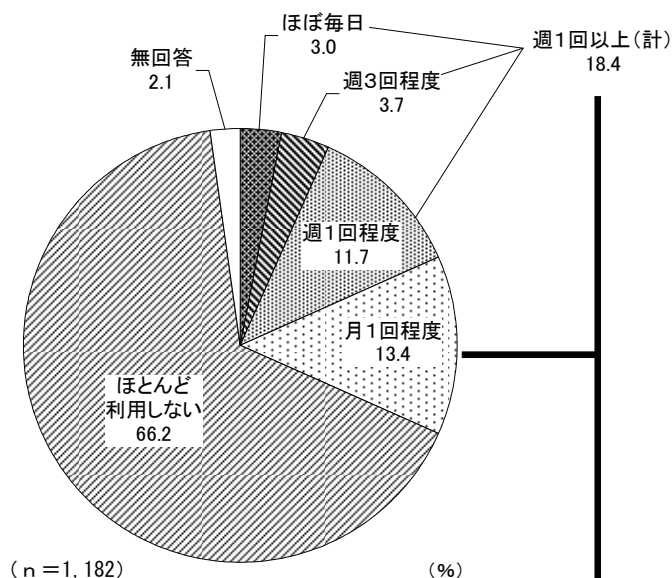
問 公園再整備事業により整備された公園を知っていますか。また、利用したことがありますか。

公園再整備事業により整備された公園の認知度及び利用状況についてたずねたところ、「知っているし、利用したことがある」(11.1%)は1割を超え、「知っているが、利用したことはない」(10.8%)は約1割となっている。一方、「知らない」(76.7%)は8割近くとなっている。



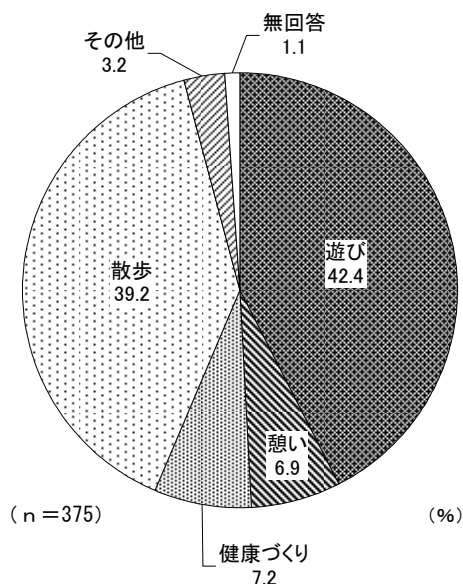
問 日頃、区立公園や児童遊園などをどの程度利用していますか。

区立公園や児童遊園の利用頻度についてたずねたところ、「ほぼ毎日」(3.0%)、「週3回程度」(3.7%)、「週1回程度」(11.7%)を合わせた『週1回以上(計)』(18.4%)が2割近くとなっている。一方、「月1回程度」(13.4%)は1割を超え、「ほとんど利用しない」(66.2%)は6割半ばとなっている。



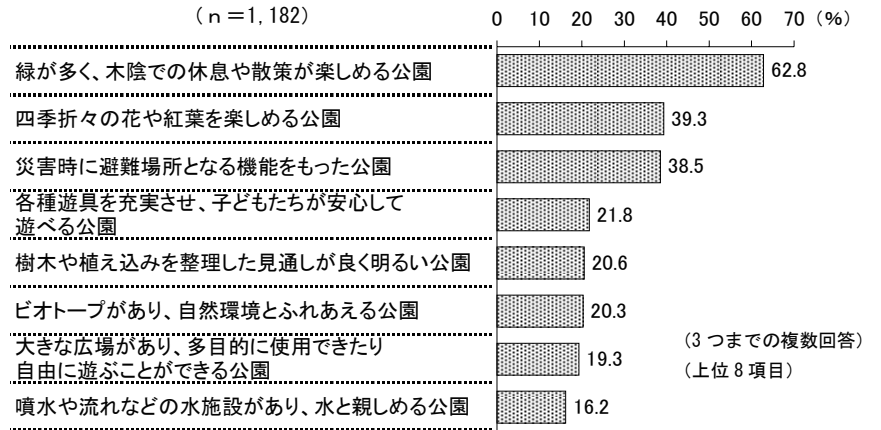
問 主に公園に何をしに行きますか。

区立公園や児童遊園などを「利用している」と答えた方(375人)に、公園の利用目的についてたずねたところ、「遊び」(42.4%)が4割を超えて最も多く、次いで「散歩」(39.2%)、「健康づくり」(7.2%)、「憩い」(6.9%)などの順となっている。



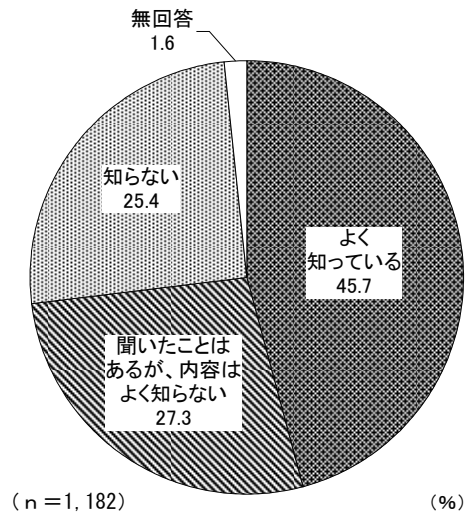
問 あなたは、どのような公園があるとよいと思いますか。

区内にあるとよいと思う公園についてたずねたところ、「緑が多く、木陰での休息や散策が楽しめる公園」(62.8%)が6割を超えて最も多く、次いで「四季折々の花や紅葉を楽しめる公園」(39.3%)、「災害時に避難場所となる機能をもった公園」(38.5%)、「各種遊具を充実させ、子どもたちが安心して遊べる公園」(21.8%)などの順となっている。



問 令和2年7月から「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」が施行され、区内全域の道路や公園など、屋外の公共の場所での喫煙・ポイ捨てが禁止となりました。このことを知っていますか。

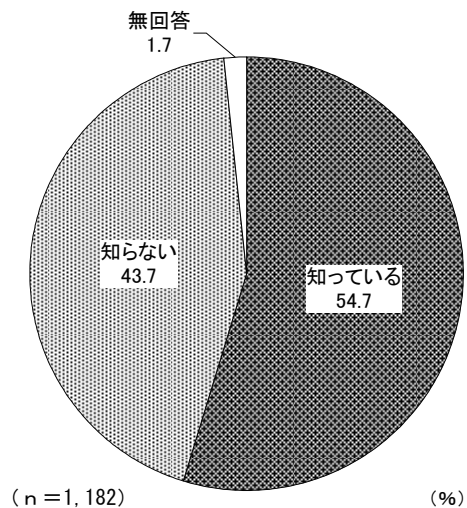
「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」の認知度についてたずねたところ、「よく知っている」(45.7%)が4割半ば、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」(27.3%)は3割近くとなっている。一方、「知らない」(25.4%)は2割半ばとなっている。



子育て・教育

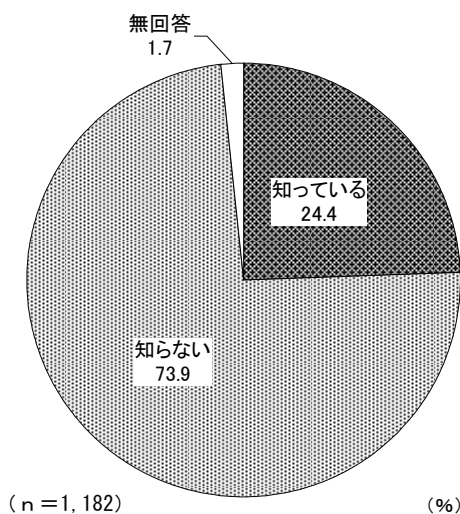
問 令和2年4月から、子どもへの体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。

子どもへの体罰が法律で禁止されたことの認知度についてたずねたところ、「知っている」(54.7%)が5割半ば、「知らない」(43.7%)は4割を超えている。



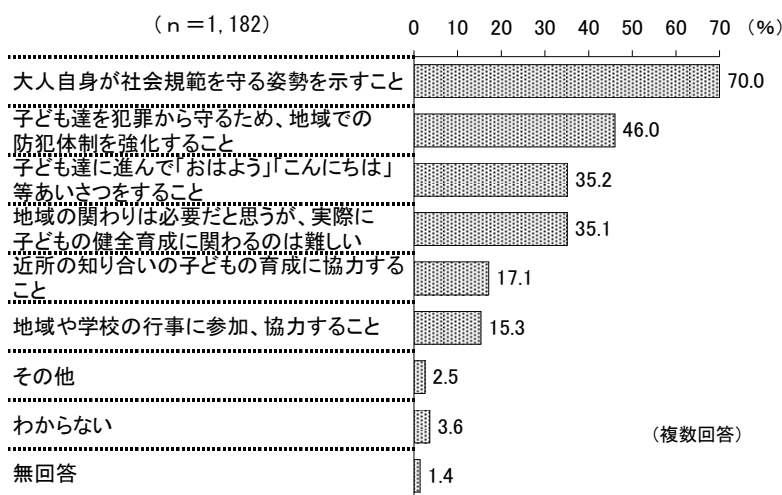
問 児童虐待が疑われるときの通報先「児童相談所虐待対応ダイヤル189（いちはやく）」を知っていますか。

「児童相談所虐待対応ダイヤル189（いちはやく）」の認知度についてたずねたところ、「知っている」（24.4%）が2割半ば、「知らない」（73.9%）は7割を超えている。



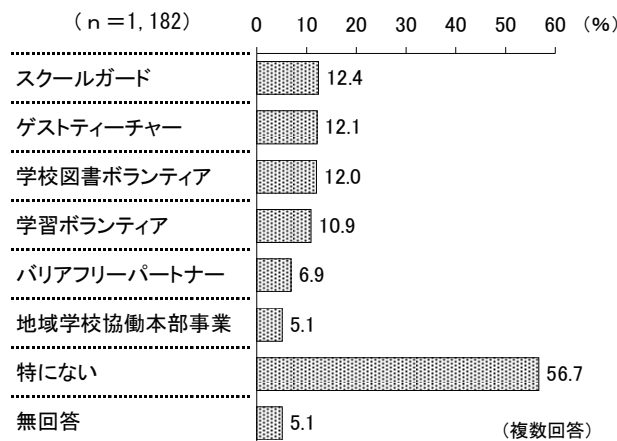
問 青少年健全育成に関して地域の大人たちができること、またやるべきことは何だと思えますか。

青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきことについてたずねたところ、「大人自身が社会規範を守る姿勢を示すこと」（70.0%）が7割で最も多く、次いで「子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること」（46.0%）、「子ども達に進んで『おはよう』『こんにちは』等あいさつをすること」（35.2%）、「地域の関わりは必要だと思うが、実際に子どもの健全育成に関わるのは難しい」（35.1%）などの順となっている。



問 あなたが今後協力したい活動をすべてお選びください。

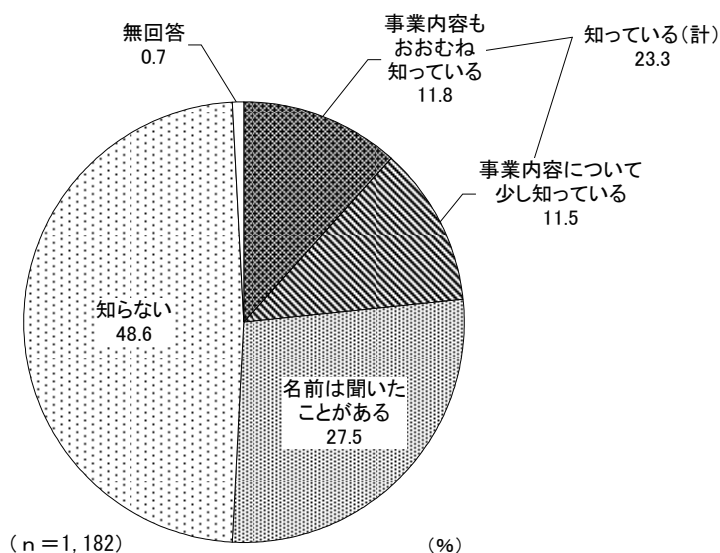
学校支援活動の今後の協力意向についてたずねたところ、「スクールガード」（12.4%）、「ゲストティーチャー」（12.1%）、「学校図書ボランティア」（12.0%）が1割を超えている。一方、「特にない」（56.7%）は6割近くとなっている。



高齢者

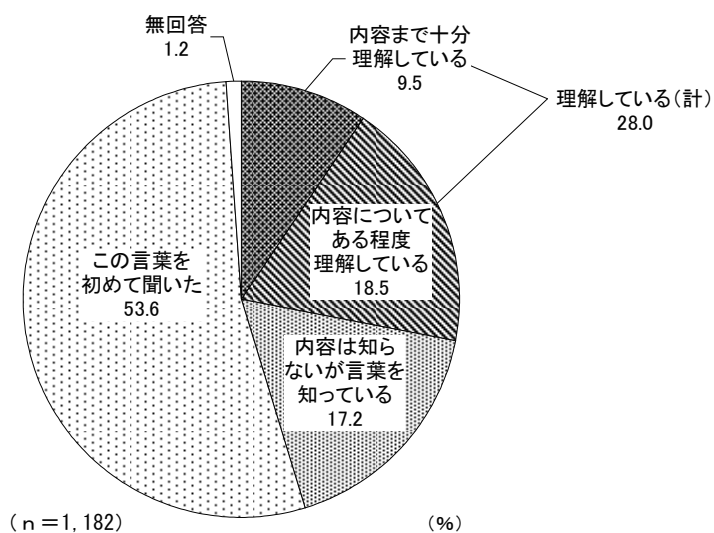
問 地域における高齢者の相談窓口である「高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）」を知っていますか。

「高齢者あんしん相談センター」の認知度についてたずねたところ、「事業内容もおおむね知っている」（11.8%）と「事業内容について少し知っている」（11.5%）を合わせた『知っている（計）』（23.3%）が2割を超え、「名前は聞いたことがある」（27.5%）は3割近くとなっている。一方、「知らない」（48.6%）は5割近くとなっている。



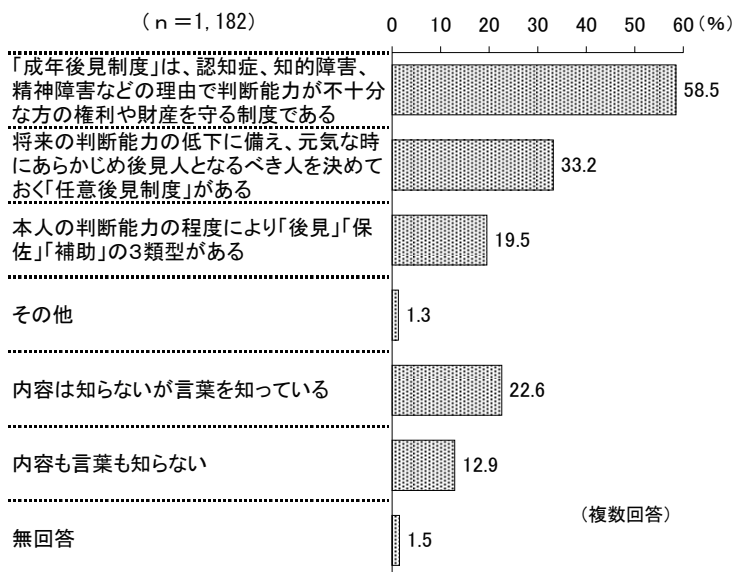
問 『フレイル』とは、年齢を重ねることで心身の活力が低下した「健康」と「要介護状態」の間を指す言葉です。この言葉について、次の中からあてはまるものをお選びください。

「フレイル」の認知度についてたずねたところ、「内容まで十分理解している」（9.5%）と「内容についてある程度理解している」（18.5%）を合わせた『理解している（計）』（28.0%）が3割近く、「内容は知らないが言葉を知っている」（17.2%）は2割近くとなっている。一方、「この言葉を初めて聞いた」（53.6%）は5割を超えている。



問 あなたは「成年後見制度」について、どのようなことを知っていますか。

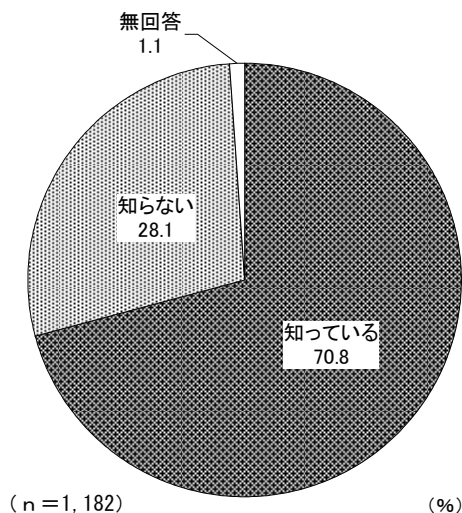
成年後見制度に関する認知度についてたずねたところ、『成年後見制度』は、認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」(58.5%)が6割近くで最も多く、次いで「将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく『任意後見制度』がある」(33.2%)などの順となっている。また、「内容は知らないが言葉を知っている」(22.6%)は2割を超え、「内容も言葉も知らない」(12.9%)は1割を超えている。



消費者相談

問 消費生活センターに、消費者と事業者との間に生じたトラブルを相談する「消費者相談室」があることを知っていますか。

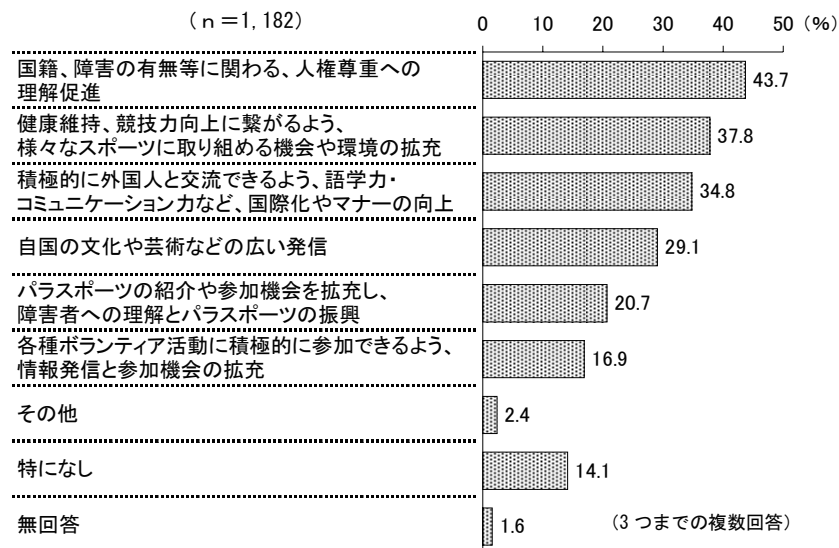
「消費者相談室」の認知度についてたずねたところ、「知っている」(70.8%)が約7割、「知らない」(28.1%)は3割近くとなっている。



文化・芸術・スポーツ振興

問 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、区では様々な取り組みを進めてきました。これらを有益なレガシー（遺産）として残すため、今後、区はどのような施策を行うことが必要だと思いますか。

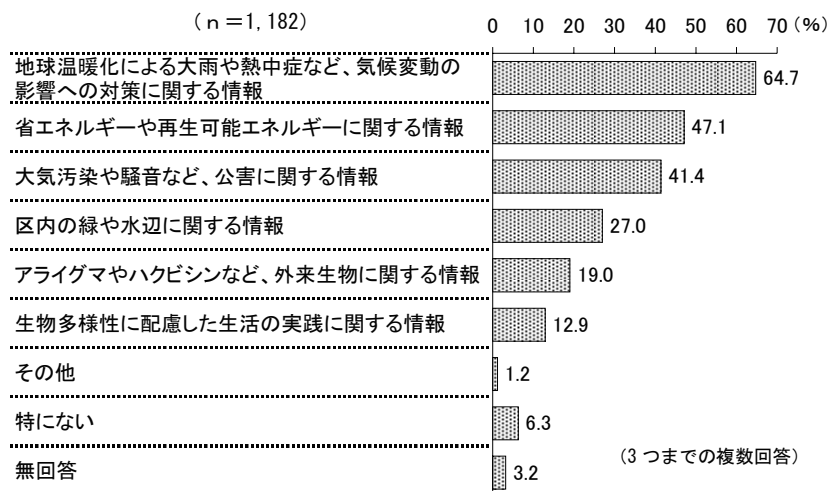
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシー（遺産）を残すため区に望むことについてたずねたところ、「国籍、障害の有無等に関わる、人権尊重への理解促進」(43.7%)が4割を超えて最も多く、次いで「健康維持、競技力向上に繋がるよう、様々なスポーツに取り組める機会や環境の拡充」(37.8%)、「積極的に外国人と交流できるよう、語学力・コミュニケーション力など、国際化やマナーの向上」(34.8%)、「自国の文化や芸術などの広い発信」(29.1%)などの順となっている。



循環型社会

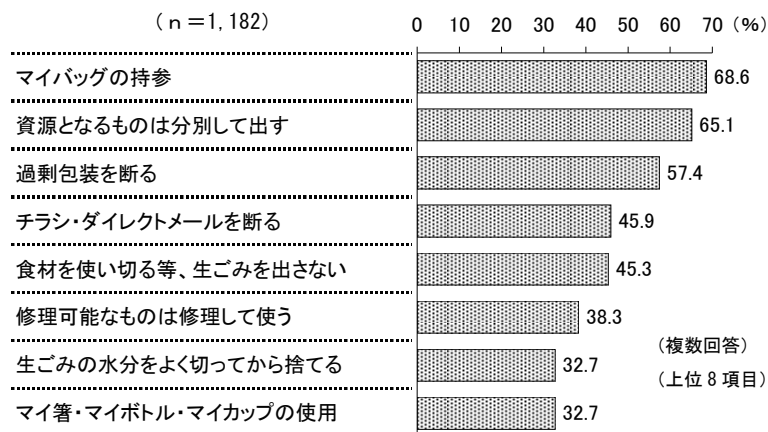
問 環境について、あなたが知りたいと考えるものは何ですか。

環境について知りたい情報についてたずねたところ、「地球温暖化による大雨や熱中症など、気候変動の影響への対策に関する情報」(64.7%)が6割半ばで最も多く、次いで「省エネルギーや再生可能エネルギーに関する情報」(47.1%)、「大気汚染や騒音など、公害に関する情報」(41.4%)、「区内の緑や水辺に関する情報」(27.0%)などの順となっている。



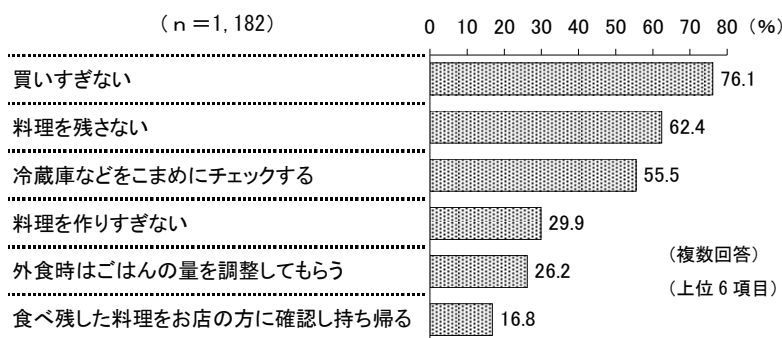
問 文京区一般廃棄物処理基本計画では、令和3年度から12年度までの10年間で、区民1人1日当たりの総排出量及び家庭ごみ排出量の約20%削減を目標としています。あなたは、この目標を達成するために、どのようなことを実践すると良いとお考えですか。

ごみ減量のために取り組むべきことについてたずねたところ、「マイバッグの持参」(68.6%)が7割近くで最も多く、次いで「資源となるものは分別して出す」(65.1%)、「過剰包装を断る」(57.4%)、「チラシ・ダイレクトメールを断る」(45.9%)、「食材を使い切る等、生ごみを出さない」(45.3%)などの順となっている。



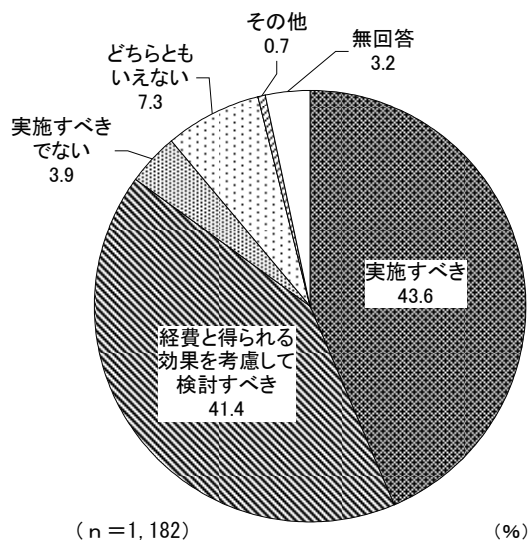
問 文京区一般廃棄物処理基本計画では、食品ロス削減推進計画を設定し、「一人ひとりが食品ロスを減らす大切さを理解し、行動する～明るく楽しく果敢に取り組む、食ロス対策～」という基本指針を設定しました。あなたは、食品ロスを減らすため日頃から行っていることはありますか。

食品ロス削減のために行っていることについてたずねたところ、「買いすぎない」(76.1%)が7割半ばで最も多く、次いで「料理を残さない」(62.4%)、「冷蔵庫などをこまめにチェックする」(55.5%)、「料理を作りすぎない」(29.9%)などの順となっている。



問 文京区一般廃棄物処理基本計画では、プラスチックごみの削減の推進のため、「プラスチックの使用を減らすライフスタイルへの転換」という基本指針を設定しました。あなたは、プラスチックごみを減らすためプラスチックを資源として分別回収することについてどのようにお考えですか。

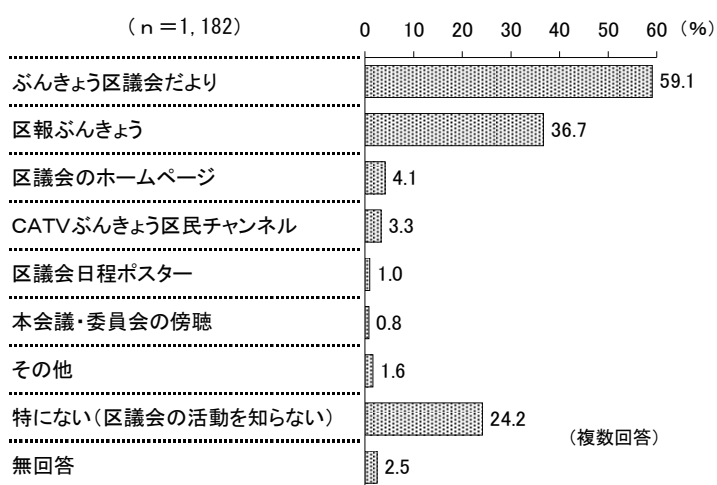
プラスチックごみの削減のための分別回収についてたずねたところ、「実施すべき」(43.6%)が4割を超え、「実施すべきでない」(3.9%)は1割未満となっている。また、「経費と得られる効果を考慮して検討すべき」(41.4%)は4割を超えている。



議会

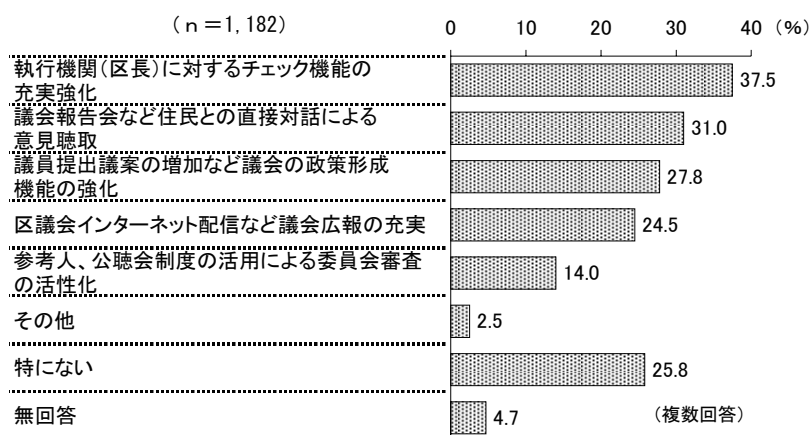
問 あなたは、区議会の活動を、どのようにしてお知りになっていますか。

区議会の活動の認知媒体についてたずねたところ、「ぶんきょう区議会だより」(59.1%)が約6割で最も多く、次いで「区報ぶんきょう」(36.7%)、「区議会のホームページ」(4.1%)などの順となっている。一方、「特にない(区議会の活動を知らない)」(24.2%)は2割半ばとなっている。



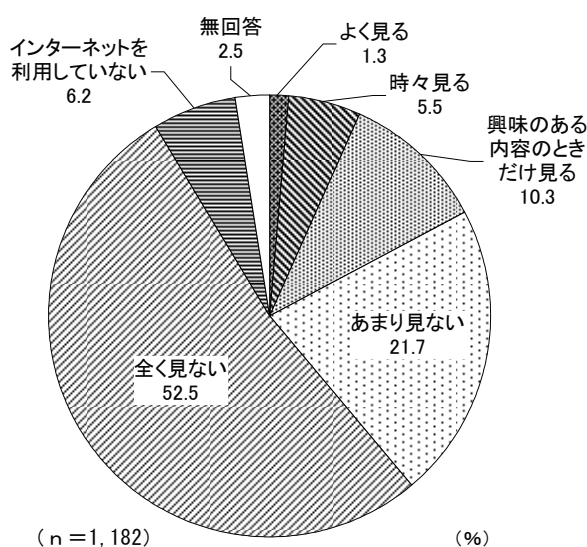
問 地方議会の活性化や議会改革が求められていますが、区議会の活動として期待することはどれですか。

区議会の活動として期待することについてたずねたところ、「執行機関(区長)に対するチェック機能の充実強化(区長)に対するチェック機能の充実強化」(37.5%)が4割近くで最も多く、次いで「議会報告会など住民との直接対話による意見聴取」(31.0%)、「議員提出議案の増加など議会の政策形成機能の強化」(27.8%)、「区議会インターネット配信など議会広報の充実」(24.5%)などの順となっている。



問 あなたは、区議会ホームページをどの程度閲覧されていますか。

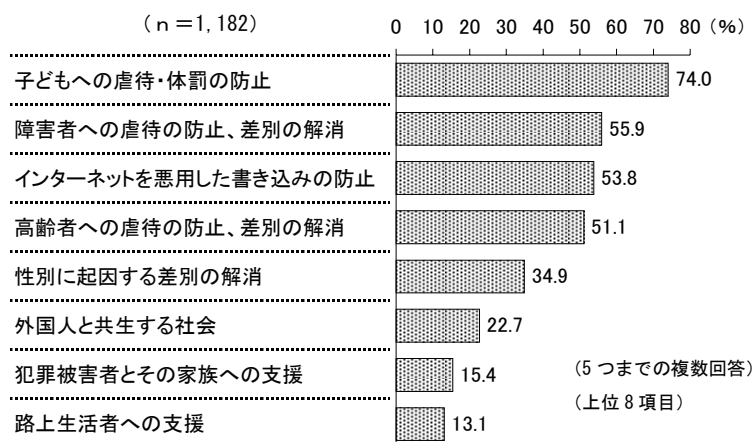
区議会ホームページの閲覧頻度についてたずねたところ、「よく見る」(1.3%)と「時々見る」(5.5%)は1割未満、「興味のある内容のときだけ見る」(10.3%)は1割となっている。一方、「あまり見ない」(21.7%)は2割を超え、「全く見ない」(52.5%)は5割を超えている。



人権・ダイバーシティ

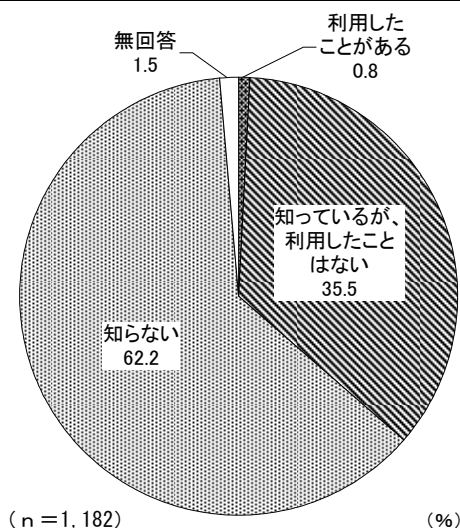
問 人権や差別・偏見についての問題の周知・理解や解決のために、区が今後どのようなことに力をを入れていくべきと考えますか。

人権や差別・偏見問題に関して区が力を入れるべきものについてたずねたところ、「子どもへの虐待・体罰の防止」(74.0%)が7割半ばで最も多く、次いで「障害者への虐待の防止、差別の解消」(55.9%)、「インターネットを悪用した書き込みの防止」(53.8%)、「高齢者への虐待の防止、差別の解消」(51.1%)、「性別に起因する差別の解消」(34.9%)、「外国人と共生する社会」(22.7%)、「犯罪被害者とその家族への支援」(15.4%)、「路上生活者への支援」(13.1%)などの順となっている。



問 文京区男女平等センター内にある相談室では、家庭や職場の人間関係や性別に関する悩みなどを相談することができます。「男女平等センター相談室」を知っていますか。

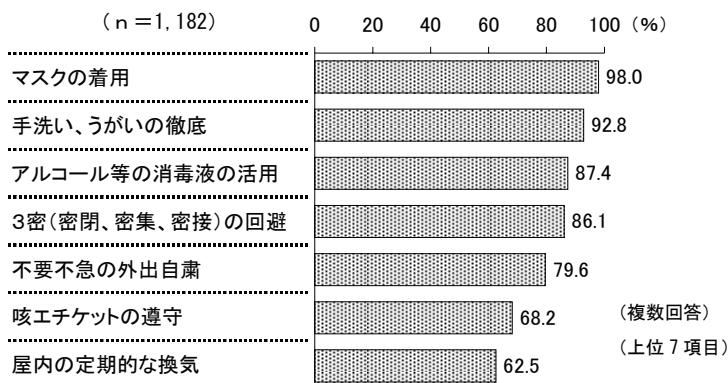
「男女平等センター相談室」の認知度・利用状況についてたずねたところ、「利用したことがある」(0.8%)は1割未満、「知っているが、利用したことはない」(35.5%)は3割半ばとなっている。一方、「知らない」(62.2%)は6割を超えている。



健康・保健

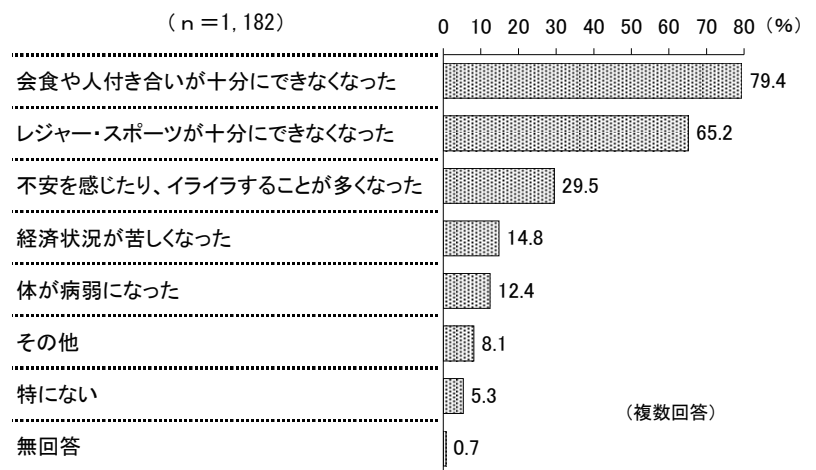
問 あなたは、新型コロナウイルス感染症について、どのような対策をしていますか。

新型コロナウイルス感染防止のために行っていることについてたずねたところ、「マスクの着用」(98.0%)が10割近くで最も多く、次いで「手洗い、うがいの徹底」(92.8%)、「アルコール等の消毒液の活用」(87.4%)、「3密(密閉、密集、密接)の回避」(86.1%)、「不要不急の外出自粛」(79.6%)、「咳エチケットの遵守」(68.2%)、「屋内の定期的な換気」(62.5%)などの順となっている。



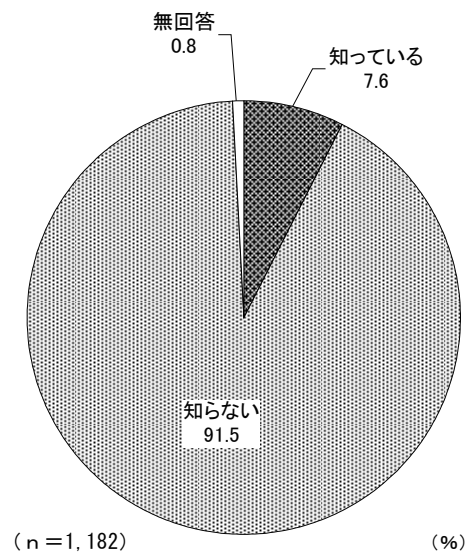
問 新型コロナウイルスによる影響で、困っていることは何ですか。

新型コロナウイルスによる影響で困っていることについてたずねたところ、「会食や人付き合いが十分にできなくなった」(79.4%)が約8割で最も多く、次いで「レジャー・スポーツが十分にできなくなった」(65.2%)、「不安を感じたり、イライラすることが多くなった」(29.5%)、「経済状況が苦しくなった」(14.8%)、「体が病弱になった」(12.4%)、「その他」(8.1%)、「特にない」(5.3%)、「無回答」(0.7%)などの順となっている。



問 身近な人の自殺のサインに気づき、必要に応じて相談機関につなぐ役割等を担うゲートキーパーの養成講座や自殺対策講演会など、区が自殺対策事業に取り組んでいることを知っていますか。

区が実施している自殺対策の認知度についてたずねたところ、「知っている」(7.6%)が1割未満、「知らない」(91.5%)は9割を超えている。



第 25 回文京区政に関する世論調査 <要約版>

印刷物番号 A0321005

令和 3 年 12 月発行

[発行] 文京区企画政策部広報課
〒112-8555 文京区春日 1 丁目 1 6 番 2 1 号
☎ 03 (5803) 1129 (直通)

[実施] 株式会社エスピー研
〒102-0072 千代田区飯田橋 3 丁目 1 1 番 2 0 号
☎ 03 (3239) 0071 (代表)

資源有効利用のため再生紙を使用しています。